

早春のウィーン・その魅力を極めるプチ・ロングステイ

日程：2013年3月13日～22日（10日間）

リーダー：村上有三

参加者：5名

費用概算：航空運賃 118,720円、
現地費用 129,000円

コンサート鑑賞、オペラ鑑賞、食事代等は別途

食事：毎朝食、昼食1回、夕食3回を含む（左記以外は自己負担）

宿泊：ホテル・オイローパ・ウィーン

ウィーンは音楽ファンにはとっておきの街ですが、美しい街並み、歴史的な建物、多くの美術館、おいしいケーキやワインと食事など、魅力いっぱいの街です。ゆったりと暮すように過ごしながら、ウィーンの街の魅力を極めましょう。旅行会社でウィーンに駐在した経験を持つリーダー（村上有三）が同行してお手伝いします。市内や近郊、他の都市への日帰り観光は、地下鉄・市電と徒歩が基本になります。

【日程】

3月13日（水） 午前、成田空港からオーストリア航空（予定）で出発。夕方、ウィーン着

3月14日（木） ガイダンスを兼ねて、市電や地下鉄を使って街歩きをしましょう。

リンクを市電で一周してから、シュテハン寺院、王宮などを巡ります。

3月15日（金） 美術館巡りをしましょう。

午前は、美術史美術館、ミュージアムクォーター。午後は、オーストリアギャラリーなどを見学します。

3月16日（土） 今日は、ウィーンの北の森を散策しましょう。北の森の山頂からウィーンの街を眺め、ベートーベンの遺書のあるハイリゲンシュタットを観光して、夕食はホイリゲで過ごします。

3月17日（日） 終日、シェーンブルン宮殿を観光。午前は、宮殿内を観光して、午後は広い宮殿内にある植物園、日本庭園、動物園などを見学します。

3月18日（月） 日帰りでザルツブルグ観光に出かけましょう。列車(2等)を使いザルツブルグに行き、サウンド・オブ・ミュージックの舞台でもあり、モーツァルトの生まれた街を徒歩で観光です。

3月19日（火） 終日、フリータイム。

（希望者は、ブタペストやスロバキアへ）

3月20日（水） 午前 音楽家達が眠り、「第三の男」の舞台となった中央墓地見学。

夕食は、全員でお別れ夕食会です。

3月21日（木） ウィーンから帰国の途に

3月22日（金） 成田着

清水 収（横浜市）

はじめに

私は間もなく80歳、“ウィーンを見ずして死すことなかれ”と友人から言われ、この企画を知り思い切って参加しました。不粋な人間で私にとってウィーンは猫に小判と思っていたが、今は多少でも風雅を解せるようになり、行ってよかったと感じ、旅行企画と参加の皆様は心より感謝いたします。

紙面に限りがあるので、以下にポイントを絞り報告します。

ウィーン的印象

街の中は落ち着いて古い建物と石畳の小径が続き、ハプスブルク家の数々の宮殿、美術館、音楽ゆかりの建築物など貴重な宝石箱が至る所にあり、街がそのままミュージアムといった印象でした。

また、街の半分は公園や緑地で、町の中では広告の類は一切なく治安もよく、行き交う人々は皆お洒落、可愛い路面電車が旅人に親近感を与え、おいしい料理と甘いケーキがそろったカフェで心が和らぐ。



人通りが増える前のケルトナー通り

世界221都市の生活水準評価でウィーンは、ここ3年世界一住みやすい街に選ばれた由（マーサー調査による）。宮廷文化の香り漂う音楽の都ウィーンに連日、感動の連続、この世のパラダイスの日々でした。

ウィーン・フィルハーモニーオーケストラ、国立オペラ座の世界一オペラに陶酔

ニューイヤーコンサートで有名なウィーン・フィルの殿堂楽友協会で休みなしで一気に1時間半、目をしっかりと開けて名演奏を傾聴。



ウィーンフィル・コンサート会場（楽友協会）前で

翌日はウィーン国立オペラ座でオペラ「アイダ」を鑑賞、2日間にわたり世界最高峰の音楽、芸術に陶酔した。両日とも中央のよい席を入手でき夢のような贅沢、幸せを体験しました。

この体験については、帰国後友人に話したら、大変妬まれた次第です。



オペラ・バレエが演じられる
国立オペラ座

音楽家ゆかりの地を訪ねる

ベートーヴェンの名曲、交響曲「田園」も生まれたハイリゲンシュタットを訪れ、閑静な住宅地で本人の遺書のある家を訪ねた。

また、広大な中央墓地にも行き、モーツァルト（記念碑）、ヨハンシュトラウス、シューベルトなどの墓を見たが、いつも献花が絶えないとのことで音楽の都ウィーンをさらに実感した。



雪が降った日のヨハン・シュトラウスの像

ハプスブルグ家ゆかりの主要スポット

○ シェーンブルン宮殿

王家栄華の象徴でウィーン屈指のスポット。1,400の部屋、美しい庭園に圧倒される。高台の館からはウィーンの街を一望千里、万感胸に迫る。



シェーンブルン宮殿

○ ホーフブルク（王宮）

640年にわたる皇帝の居城、シシィ博物館、銀器コレクション、美術史美術館など貴重な名品にうっとり。また、国立図書館では、ヒトラー自筆の手紙、写真に一瞬戦慄する。

○ ヴェルベデーレ宮殿

豪華なバロック宮殿で今は美術館として、クリムトの「接吻」など世紀末アートの作品数は世界一、他にモネなどの印象派の作品もそろい、美術ファンには垂涎の宮殿

○ シュテハン寺院

街の中心に建つ荘厳な寺院、私たちが泊まったホテルの近くでゴシックスタイルの巨大塔が迷子になった時の目印となる。

郊外に足を伸ばす

路面電車とバスでウィーンの北の森へ、ブドー畑を見ながらカーレンベルクの丘の展望台に到着、ここからドナウ川を一望、思わず「美しく青きドナウ」の調べを口ずさむ。音痴の私でもこのメロデーだけは小さい時から愛着あり。



路面電車（リング）は便利な観光の足

さらに映画「第三の男」の舞台プラッターにも行き、大観覧車に乗る。60年前の木造車のままで、歴史と文化を大切にするお国柄に感服。青春時代の映画シーンに思いを馳せる。

食事とスイーツ



カフェに並ぶスイーツの数々

海外へは幾度か行ったが食事が美味しかった思い出はほとんどなかった。但し、今回のウィーンでは手頃な料理店カフェ等で食事したが本当に美味しかった。特にカフェでのケーキ、菓子などはとろけるような味で、体重増加を気にしながらもついつい注文してしまう。音楽、芸術、スイーツがウィーンでは一体の文化になっている印象を受けた。



巨大なウインナーシュニツェル

ユニークだったのは、ウインナーシュニツェルと呼ばれる日本というカツレツ、何と直径 30 センチもあり、私たち全員食べ残す。現地の人達は軽く平らげ

二度びっくり。ウィーンの森の帰りに立ち寄ったホイリゲ（ワイン居酒屋）の料理も、閑静な所で豪快な肉料理を食べたのも忘れられぬ味だった。

ザルツブルクへの列車の旅

モーツアルトの生地、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台であるザルツブルクへ日帰り旅行をした。

列車大好き人間で、車窓からの風景を凝視続け、広い大地、ドナウ川の流れを楽しみながら 2 時間余りでザルツブルクへ到着。ハプスブルク家も一目置くほどの栄華を誇った面影の残る石畳の小径歩き、モーツアルトの生家に寄る。

川岸から高台にそびえるホーエンザルツブルク城を仰ぎその背後にはるか白いアルプスが迫る大パノラマはまさに一幅の絵、名画「サウンド・オブ・ミュージック」に思いを馳せる。旅の疲れもすっかりとれて、心癒される殊玉の一日だった。



ザルツブルグの街とホーエンザルツブルク城

最後に

夢のような感動、興奮の日々があつという間に過ぎた。生涯忘れることのできない素晴らしい旅となりました。今回はひとえにきめ細かい手作り企画とコンサート手配など、現地にてお世話になったリーダー初め参加の皆様にご心よりお礼、感謝申し上げます。

長生きしてよかった。本当にありがとうございました。